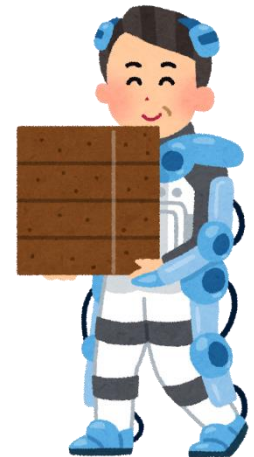


特集：労働の未来

【労働の未来】

AIが日々進化して、この数年で、人の判断をほぼ委ねるところまで技術は進歩し続けています。この先、5年、10年後の労働環境はどうなるのでしょうか。働き方の哲学の本やその時代における就職活動、そして、仕事なくなる不安について考える本、将来における雇用や労働の法律実務の在り方や学者による労働法の将来像、究極の社会福祉ベーシックインカムなどを語った書籍を集めました。



【書籍の紹介】

★5分でわかる10年後の自分 2030年のハローワーク 関子 慧

KADOKAWA (2019.12) 366.29/490

人工知能(AI)で仕事が奪われるってホント? 皆様には、ぴんとこないかもしれませんが。しかし、10年後、社会人になったとき、仕事や働き方はどんな風になっているのでしょうか。この本は、5人の中学生とその保護者たちが登場する物語です。登場人物とともに、AIが変える10年後の未来をのぞきましょう。そして、これからの自分の進路を考えるとときの参考にしましょう。本書の最後には、将来の働き方や仕事上で体験したことから、将来に向けた仕事選びをAIによって提示します。

★10年後の仕事図鑑 —新たに始まる世界で、君はどう生きるか—

落合 陽一・堀江 貴文 SBクリエイティブ (2018.06) 366.29/478

世の中の多くの人たちは、AIに仕事が奪われていく未来を肯定できません。AIが単純労働を代替し、人間が好きなことだけをやって、自由に生きられることを想像できないようです。過去に築き上げられた常識が、通用しない未来について、メディアアーティストと実業家が紹介していきます。AIが台頭する21世紀には、AIに価値を奪われる人と、AIで価値を生み出す人が出てきます。この先、生まれる仕事と、伸びる仕事、そして無くなる仕事や減る仕事について考えていきます。

★AI時代の労働の哲学 稲葉 振一郎 (講談社選書メチエ 711) 講談社 (2019.09) 366/246

AIが人間の仕事を奪う…これは「古くて新しい問題」です。馬車は、自動車に変わり、工場は、産業ロボットの導入でオートメーション化され、いつの時代もテクノロジーは、仕事を変えてゆくの。それでは、AI化のインパクトは、これまでの機械化と同じなのでしょうか、違うのでしょうか。機械化が人間労働に与えるインパクト、「労働」概念自体から振り返り、ヘーゲルやマルクスら哲学者による近代的な労働観、ローマ法を下敷きとした労働の取引をめぐる枠組みなど、資本主義そのものへの影響を射程に入れて検討します。



★坂本真樹と考えるどうする？人工知能時代の就職活動

坂本 真樹 エクシア出版 (2017.08) 366/241

人工知能が、人間の仕事を担う「第四次産業革命」とも呼ばれる流れは、これまでの産業革命以上に、大きな社会の変革を引き起こすともいわれています。そのような変化に、どのような対処をしたらいいのでしょうか。今、働いている人の職がなくなるのではなく、労働力不足を人工知能が補ってくれるという考え方で、人工知能がどのように人に対してサポートしていくか、就職活動で変わる点を紹介していきます。

★「AI失業」前夜ーこれから5年、職場で起きること 鈴木 貴博

(PHP ビジネス新書 396) PHP 研究所 (2018.07) 366.2/686

人工知能が生み出す仕事の減少は、未来の話ではなく、すでに、現在進行形で、日々その勢いを加速しています。そして、もう一つ重要なことは、少子化・高齢化社会という人口構造がもたらす人手不足の問題は、人工知能による仕事消滅やAI失業によって解決されるのではなく、その要因が相まって、むしろ社会の混乱を大きくすることです。今後5年間で何が起き、何をすればよいのかを予測し解説します。

★「AIで仕事がなくなる」論のウソーこの先15年の現実的な雇用シフトー

海老原 嗣生 イースト・プレス (2018.05) 366.2/685

AIの実現性が報告されて、大学やビジネス誌において、今後の仕事について、これからなくなる仕事、生き残るための処方箋などが明言され、5年ほど経ちました。しかし、現在も雇用は減るどころか、人手不足に悩まされています。しかも、いくつかのレポートには欠陥がありました。サービス業、製造業そして建設業など「なくなる」と指摘された業種でも、経費的にAIが入り込む隙間がないことを指摘します。

★AI時代の雇用・労働と法律実務 Q&Aークラウドソーシング/HRテック/ライドシェア/

テレワーク/働き方改革ー 水谷 英夫 日本加除出版 (2018.03) 366.1/516

AIやロボットの進化、あらゆるモノがネットに繋がっている「IoT」などが、急速に私たちの社会に浸透するなか、企業は収益力を高めるため事業再編を進めています。それに伴い私たちの働き方も、変容を余儀なくされています。特にネットを介して仕事を細分(タスク)化し、企業外のフリーランスに業務請負をさせることが多くなります。このような労働基準法の法規適用外の人々を増やす時代での法律実務の問題点を解説します。

★AI時代の働き方と法ー2035年の労働法を考えるー 大内 伸哉 弘文堂 (2017.01) 366.1/509

人工知能の発達により、労働法学もそれに向き合わないとなりません。雇用がなくなっていく時代の労働法をどう構想していくかを考えます。著者が、研究の多くの部分を占めてきた労働者概念について、焦点を当てます。労働法が適用される労働者とは、人々がAIやICT(情報通信技術)を活用しながら、より自由に働くようになる社会が到来する中で、その対象は、むしろ自営業者(非従属労働者)ではないかと、論考を進めます。

★AI時代の新・ベーシックインカム論 井上 智洋 (光文社新書 940) 光文社 (2014.04) 364/332

ベーシックインカムとは、政府が、すべての人に必要な最低限の生活を保障する収入を無条件に支給する制度です。近年、ヨーロッパ諸国を中心にこの制度の導入をめぐる動きがあります。主な理由としては、格差の拡大や貧困の増大を改善する手段として、そして、もう一つにAIやロボットが多くの雇用を奪うことになるのではないかと懸念からです。日本での導入の可能性、最大の障害となる問題、財源問題などを論じていきます。